

告 辞

本日ここに、多数のご来賓並びに保護者の皆様方のご臨席のもと、平成25年度三重短期大学入学式を挙行するにあたり、本学の設置者としてご挨拶を申し上げます。

346人の皆さん、ご入学おめでとうございます。

心からお祝いを申し上げますとともに、新たに三重短期大学の学生として皆様をお迎えできましたことを、大変嬉しく思います。

皆さんは、これからの2年間、東福寺一郎学長をはじめ、諸先生方の指導のもと、しっかりと勉学に励まれ、教養を高められますとともに、高度の専門知識を身につけてください。

三重短期大学は、昭和27年に開学し、昨年、60周年を迎えました。開学時は、「戦災の復興はまず教育から」という当時の津市民の教育にかける熱意を背景に、勤労青年に高等教育を受ける機会を与えることと、女子教育の振興を図ることをその建学の精神として発足いたしました。

そして、この60年の間、社会の変化と共に本学も様々な変遷を遂げています。当初は、市内や県内近隣の学生がほとんどでしたが、今では、全国各地から来られた多くの学生がこの津市で学ばれ、また全国各地へと巣立っています。本日の入学生の皆さんの中にも、北は北海道、南は沖縄県出身の方がみえます。まさに全国津々浦々から、この津に胸を弾ませて来ていただいていることでしょう。

津々浦々の津とは、港を意味します。津市も古くは安濃津と呼ばれ、鹿児島県の坊津（ぼうのつ）、福岡県の博多津（はかたのつ）と並び、流通貿易の拠点となる海上貿易の港町として、また、藤堂高虎公を初代藩主とした津藩の城下町、また、伊勢参りの宿場町として栄えてまいりました。

津市は、明治22年4月、全国30市とともに、日本で初めて市制を施行した都市の一つでもあります。

平成18年1月、2市6町2村が一つとなり、海から山までの豊かな自然に恵まれた新たな津市としてスタートを切ってから今年で早8年目を迎えることとなりました。清少納言が「枕草子」において「ななくり

の湯」として、日本三名泉の一つに掲げた榊原温泉や、浄土真宗高田派の総本山である高田本山専修寺、NHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国」のヒロインお江が、幼少期に過ごしたとされる伊勢上野城跡などのお江ゆかりの地、伊勢国司の北畠顕能（あきよし）を祭った北畠神社など、数多くの観光資源や、「うなぎ」、「津ぎょうぎ」など、津市を代表する美味しい食べ物もあります。大学で学ばれる合間に、津のまちへ出かけていただき、津市の良さを感じてください。そして、津を好きになってください。

市内在住の皆さんはもちろん、県外出身の皆さんも、三重短期大学で過ごされた経験を、2年後、次はまた全国に巣立たれたときに十分活かして欲しいと思います。どうか、この津の良いところを語ってください。皆さん一人一人が、2年後、津で学ばれ、新たな発見をしたこと、感動したことを全国に発信するメッセンジャーになってください。それが設置者としてのもう一つの願いです。

皆さんが短期大学で学ぶ2年間は長いようですが、人生のステージでは、ほんの一瞬かもしれません。この貴重な時間を十二分に生かし、勉学に、スポーツに大いに励まれ、有意義な学生生活を送ってください。

また、大学生活は、社会を幅広く知るための良い機会でもあります。人と人とのつながりを育み、社会に少しずつ足を踏み出すことで、多くのことを吸収し、社会人としての判断力を少しずつ養っていただきたいと思います。そして、幅広く物事をとらえ、柔軟性に富んだ思考力と、時代の流れに対応できる力を身につけてください。

また、皆さんの中には、仕事や家事のかたわら通学をされる方もお見えになります。限られた時間を有効に活用し学ばれようとするその立派な志に、心より敬意を表しますとともに、仕事と勉学をしっかりと両立させていただけるよう願っています。

最後に、皆さんが明るく前向きに学生生活を送っていただき、すばらしい人間として成長していただくことをお祈りいたしまして私の告辞いたします。

平成25年4月5日

津市長 前 葉 泰 幸